

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今のよう精度の高い気象予測がなかった昔は、「夕焼けがよいと明日は天気」「五竜岳に雲がかかれは明日は雨」など、親から多

くの気象諺を学んだ。しかし台風9号・10号の気象データは、暴風・大雨の地域別の警戒が必要な時間帯、予想最大瞬間風速、24時間予想雨量、雨雲の動き、そして台風の概要が各種情報ツールで瞬時に伝わってくる。事前には、特別警報の発表の可能性の言及や鹿児島上陸の見通しも伝えられたが、中心気圧が発表基準に達する見込みでなくなり当初より勢力が弱まったとして、特別警報の発表を見送った。気象庁関係者は「住民の警戒感が緩む恐れもあるが、空振りも、ためらわず情

報を出すのが基本の考え」と説明した。台風の特別警報は、中心気圧と最大風速を基に出される。発表されたのは沖縄県で過去2回のみだが、これからも気象庁は空振りを恐れずに、生命を守るために

海面温度が極端に高くなる「海の熱波」。

台風シーズンの今後が心配だ

対応してほしいと願っている。雨量がどれくらいだと、人はどう感じるか、気象庁がホームページで説明している。1時間の雨量が10〜20ミリの「ザーザーと降る」、20〜30ミリの「どしゃ降

り」、30〜50ミリの「バケツをひっくり返したように降る」、50〜80ミリの「滝のように降る」「ゴーゴーと降り続ける」、80ミリア上は息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず」とあるが、最近発

ポチャを収穫しようとして、30〜50ミリのバケツをひっくり返したように降る、50〜80ミリの滝のように降る「ゴーゴーと降り続ける」、80ミリア上は息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず」とあるが、最近発

ポチャを収穫しようとして、30〜50ミリのバケツをひっくり返したように降る、50〜80ミリの滝のように降る「ゴーゴーと降り続ける」、80ミリア上は息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず」とあるが、最近発



おいしくするために食品トレーをカボチャの枕にするのだが、それがアダになったようだ

連絡すると、10分も掛からないうちに、岩岳地区のメンバーが対抗策を開始。対応の素晴らしさに驚きを感じた。 (信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)